News Release

あべのハルカス美術館

人と街の可能性を拓く。
近鉄不動産

2019年 3月 19日

あべのハルカス美術館「安野光雅展」 開催決定！

日本一高いビル「あべのハルカス」の16階あべのハルカス美術館では、2014年3月の開業以来、東大寺展を皮切りに全26本の展覧会を実施してまいりました。

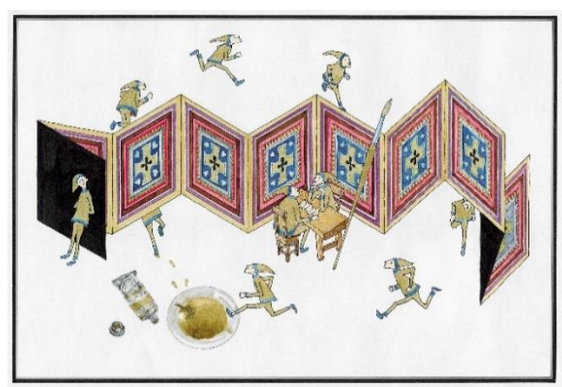
2019年4月からは「クマのプーさん展」、「ギュスターヴ・モロー展　サロメと宿命の女たち」、「ラファエル前派の軌跡展」、「カラヴァッジョ展」、「国宝東塔大修理落慶記念　薬師寺展」の5本の展覧会（詳細は別紙参照）を予定しております。上記5本の展覧会に続き、新たに下記展覧会の開催が決定しましたのでお知らせします。

今後も多種多様な展覧会を気軽に楽しめる、より魅力的な都市型美術館として多くのお客様にお越しいただけるよう運営してまいります。

「安野光雅展」

会　　期：2020年4月29日（水）～2020年6月24日（水）
共　　催：朝日新聞社、関西テレビ放送
開催趣旨：大正15（1926）年、島根県津和野町に生まれた安野光雅は、半世紀以上にわたり画家、絵本作家、装丁家として多彩な活躍を続け、独創的な作品は国内外の高い人気を得ています。本展では、絵本のデビュー作『ふしぎなえ』から、近年の大作『繪本 三國志』まで、やさしく、美しく、ユーモアと不思議にあふれた安野ワールドを紹介します。

『旅の絵本VI デンマーク』2004年
©空想工房



『ふしぎなえ』1968年
©空想工房

『繪本 三國志』「皇帝更迭」2010年
©空想工房

（作品は全て、津和野町立安野光雅美術館蔵）

別　紙

～　あべのハルカス美術館　2019年度　展覧会ラインアップ　～

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月～
展覧会名	Ⅰ.クマのプーさん展			Ⅱ.ギュスターヴ・モロー展 サロメと宿命の女たち			Ⅲ.ラファエル前派の軌跡展			Ⅳ.カラヴァッジョ展		Ⅴ.国宝東塔大修理落慶記念 薬師寺展	Ⅵ.安野光雅展
会期	4月27日（土） ～ 6月30日（日）			7月13日（土） ～ 9月23日（月・祝）			10月5日（土） ～ 12月15日（日）			12月26日（木） ～ 2020年2月16日（日）		2月28日（金） ～ 4月19日（日）	4月29日（水） ～ 6月24日（水）
日数	62日			70日			69日			50日		50日	51日

【詳細】

Ⅰ.クマのプーさん展

会　　期　：2019年4月27日(土)～2019年6月30日(日)
共　　催　：ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館、朝日新聞社、関西テレビ放送
開催趣旨：『クマのプーさん』は1926年に出版されて以降、50以上の言語に翻訳され、5000万部以上のシリーズ本が出版されています。この展覧会は、著者A.A.ミルンと挿絵を担当したE.H.シェパードに関する資料や、英国ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館をはじめ各国から集めた貴重な原画などにより、世界中で愛される「クマのプーさん」のすべてを紹介する決定版の展覧会です。

「ながいあいだ、三人はだまって、下を流れてゆく川をながめていました」、
『プー横丁にたった家』第6章、
E.H.シェパード、鉛筆画、1928年、ジェームス・デュボース・コレクション
© The Shepard Trust

「枝には、ハチミツのつぼが10ならんでいて、そのまんなかに、プーが…」、
『クマのプーさん』第9章、E.H.シェパード、ラインブロックプリント・手彩色、
1970年 英国エグモント社所蔵© E H Shepard colouring 1970 and
1973 © Ernest H. Shepard and Egmont UK Limited

Ⅱ. ギュスターヴ・モロー展　サロメと宿命の女たち

会　　期 ：2019年7月13日(土)～2019年9月23日(月・祝)
共　　催 ：読売テレビ、読売新聞社
開催趣旨：19世紀末フランスに花開いた象徴主義の巨匠、ギュスターヴ・モロー(1826-1898)は、神話や聖書をテーマにした魅惑的な女性像で知られます。なかでも、新約聖書などに伝わる「サロメ」を描いた作品は、世紀末ファム・ファタル(宿命の女性)のイメージ形成に影響を与えました。本展ではパリのモロー美術館の全面協力のもと、身近な女性たちからファム・ファタルまで、モローの多様な女性像を紹介し、その創造の原点に迫ります。

《出現》 ギュスターヴ・モロー　1876年頃
ギュスターヴ・モロー美術館
Photo © RMN-Grand Palais /
Ren é -Gabriel Oj é da / distributed by AMF

《一角獣》 ギュスターヴ・モロー　1885年頃
ギュスターヴ・モロー美術館
Photo © RMN-Grand Palais /
Ren é -Gabriel Oj é da / distributed by AMF

Ⅲ. ラファエル前派の軌跡展

会　　期 ：2019年10月5日(土)～2019年12月15日(日)
共　　催 ：産経新聞社、関西テレビ放送
開催趣旨：1848年、ラファエル前派兄弟団は英国美術の刷新をめざし結成されました。画壇から攻撃された彼らを擁護したのは、偉大な風景画家ターナーを支援する美術批評家ラスキンでした。その思想はロセッティやミレイ、バーン＝ジョーンズ、モリスらメンバーの精神的支柱となり、多くの追随者に引き継がれてゆきます。本展では、ヴィクトリア朝美術に輝かしい軌跡を残した画家たちの功績と、彼らを照らしたラスキンの美学をご紹介します。

《ムネーモシューネー(記憶の女神)》
ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ　1881年
デラウェア美術館
Dante Gabriel Rossetti, Mnemosyne,
1881, Oil on canvas, 126.4 × 61 cm, Delaware Art Museum, Samuel and Mary R. Bankroft Memorial, 1935

《嘆きの歌》エドワード・バーン＝ジョーンズ
1865-66年 ウィリアム・モリス・ギャラリー
Edward Burne-Jones, The Lament,
1865-66, Watercolour and bodycolour, on paper laid down on canvas, 47.5 x 79.5 cm, William Morris Gallery

《カレの砂浜 —— 引き潮時の餌採り》
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー
ベリ美術館
J. M. W. Turner, Calais Sands at Low Water: Poissards Collecting Bait,1830, Oil on canvas, 68.6 x 105.5 cm, Bury Art Museum, Greater Manchester, U.K.

Ⅳ. カラヴァッジョ展

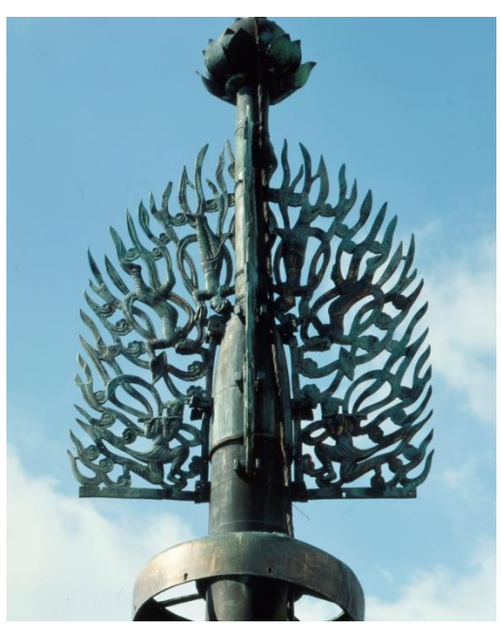
会　　期 ：2019年12月26日(木)～2020年2月16日(日)
共　　催 ：読売新聞社、読売テレビ
開催趣旨：17世紀バロック絵画の創始者で、イタリアが誇る天才画家、ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ(1571－1610)。光と闇の交錯する劇的な絵画空間、迫真的な描写は多くの追随者を生みました。その栄光とは裏腹に、破滅的な人生が伝説ともなりました。わずか60点強とされる現存作品の中から、日本初公開を含む約10点と、彼に影響を受けた画家たちの作品が一堂に集結します。

《ホロフェルネスの首を斬るユディト》ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ
1599年頃　バルベリーニ宮国立古典美術館
per concessione del Ministero dei Beni e delle Attivit à Culturali e del Turismo

《マグダラのマリア》
1606年　個人蔵
©Associazione Metamorfosi

Ⅴ. 国宝東塔大修理落慶記念　薬師寺展

会　　期 ：2020年2月28日(金)～2020年4月19日(日)
共　　催 ：法相宗大本山薬師寺、読売新聞社、NHK大阪放送局、NHKプラネット近畿
開催趣旨：薬師寺は、西暦680年天武天皇が皇后(後の持統天皇)の病気平癒を祈願して発願されました。その薬師寺に創建当初から唯一現存する東塔の大規模な解体修理の落慶を記念する展覧会です。今回の修理の成果を初めて紹介すると共に、1300年の長きに渡り東塔の頂を飾っていた水煙や、非公開の国宝、重要文化財を多数含む薬師寺の寺宝を一堂に展示します。



国宝東塔の水煙　ⓒ飛鳥園

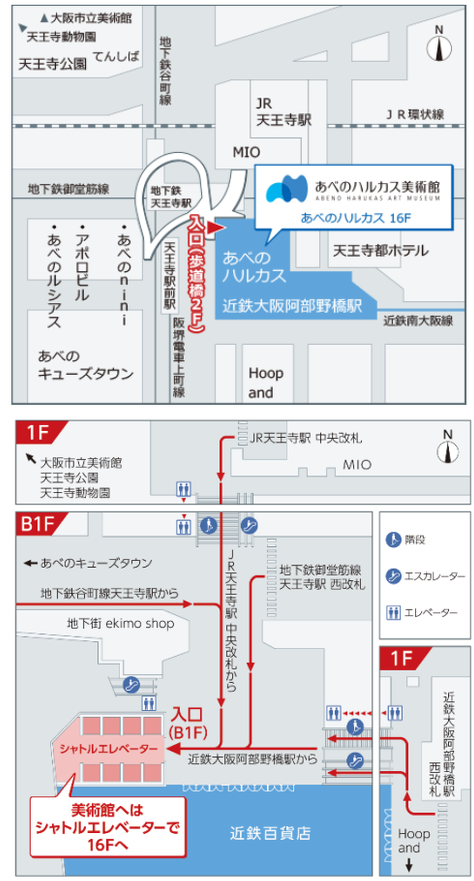
【開館時間】
　火～金： 10:00 – 20:00
月土日祝： 10:00 – 18:00
＊入館は閉館30分前まで

【休館日】
一部の月曜日
展示替え期間(不定期)
＊展覧会により休館日は異なります。

【所在地】
〒545-6016
大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43 あべのハルカス16階

【最寄駅】
近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」駅 直上
JR各線「天王寺」駅
地下鉄御堂筋線「天王寺」駅
地下鉄谷町線「天王寺」駅
阪堺上町線「天王寺駅前」駅 よりすぐ

【アクセス】



以　上